

自主防災組織とコミュニティづくり

山 泰幸

(関西学院大学人間福祉学部)

自己紹介

- 2005年1月17日 関西学院大学災害復興制度研究所設立直後の福岡西方沖地震(2005年3月20日)の現地調査のコーディネートの他、新潟中越地震、岩手・宮城内陸地震など現地調査に従事。
- 民俗学・社会学の立場から、地域コミュニティづくりについて、地域の伝統文化や文化財、環境、観光、防災などを手掛かりに研究。
- 現在、関西学院大学人間福祉学部准教授。博士(社会学)。関西学院大学災害復興制度研究所運営委員、関西学院大学観光学・まちづくり研究センター長を兼務。文部科学省科学研究費補助金「中山間地における孤立集落の事前復興に関する災害復興学的研究」研究代表者。
- 著書論文に、『災害復興 阪神・淡路大震災から10年』(2005)、『『象徴的復興』とは何か』『先端社会研究5号 災害復興制度の研究』(2006)、『環境民俗学』(2008)、『文化遺産と現代』(2009)など。

自主防災組織の必要性

- 阪神・淡路大震災の教訓
 - 大半の被災者を、家族・隣近所の住民が救助
 - 公助の限界。自助の原則。共助の大切さ。
 - 防災における地域コミュニティの重要性
 - 自分たちの地域は自分たちが守る！
- 自主防災組織を立ち上げよう！！

災害に強いコミュニティを目指して！

- 災害に強いコミュニティを作る！
- しかし、**災害にだけ強いコミュニティは無い。**
- 災害に強いコミュニティは、**防災活動以外でもコミュニティ活動のさまざまな面で強い。**
- **コミュニティ力そのものを高める必要がある。**
- **コミュニティづくりの必要性！！**
- **「事前復興」という考え方ー被災後の復興が早いコミュニティは、事前に復興プロセスを始めている！**

コミュニティ力の指標

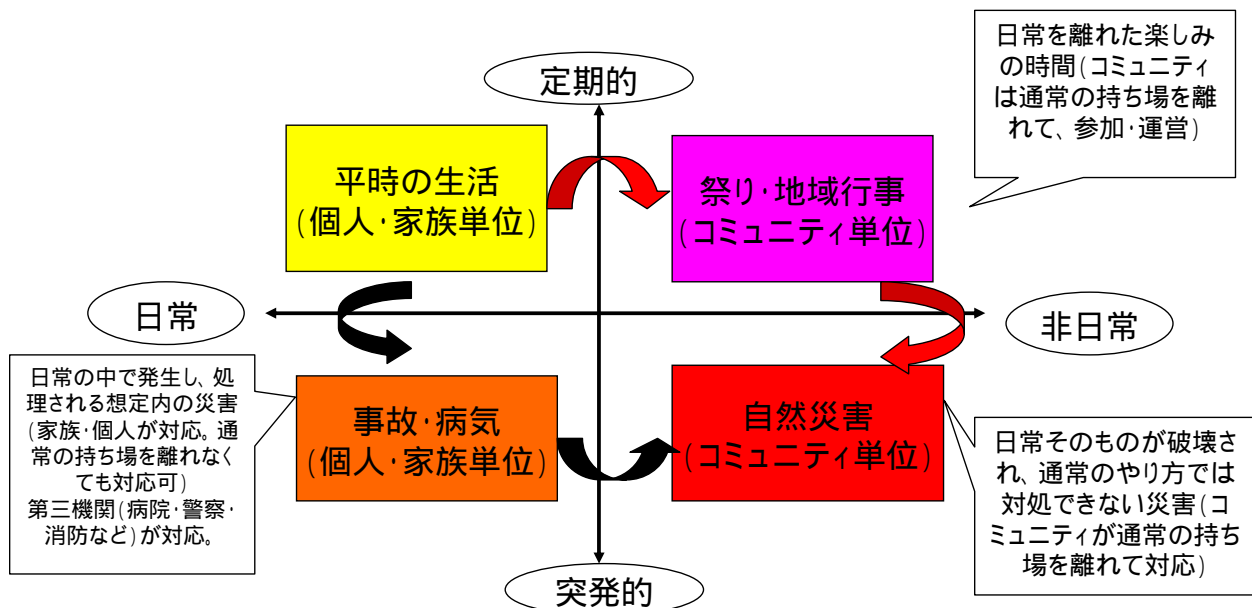
- 1. **それでもここで暮らしていかなければならない人々がいること。**
- 2. 人と人の「**関係**」があること。特に、**神仏、自然、生活環境などを介した人と人の「関係」**が生きていること。
- 3. 「**関係の束**」としての集団が**複数・重なり合っ**て組織され、活動していること。タテとヨコの連絡。
- 4. 時と場所をわきまえていること(**共通の価値や規範がある**)。
- 5. **外部との適度な交流**があること。
- 6. 伝統文化や文化遺産など、それぞれのコミュニティが大切だと思ってきた**心の拠り所(シンボル)**が守られていること。
- 例)「**象徴的復興**」(山2006)
- これらの条件の具備の程度が、コミュニティ力を決めていく。

防災とコミュニティづくり(1)

- **二つの方向性**
- コミュニティづくりから始めるか。防災から始めるか。
- どちらからでもよい。それぞれのコミュニティの特徴を活かす。
- **1) コミュニティづくりから、防災へ**
- 例) 防犯活動が盛ん。地域の祭りに熱心。環境保護活動・文化財の保存会活動。入り口はなんでもいい。地域が一緒になれる課題を！
- **2) 地域防災の取り組みから、コミュニティづくりへ**
- 例) 自主防災組織の立ち上げがきっかけになり、地域の防災意識が高まり、コミュニティづくりへ発展
- 例) 若者や新住民が、自治会に加入しない。防災を入り口にするケースも。
- 例) 幼稚園・小学校と連携して、子どもへの防災教育を通じて、保護者(若い年齢層)も参加させる。
- いずれにしてもコミュニティづくりが必要。
- しかし、**コミュニティづくりは、時間がかかる。気長に取り組むこと。**

防災とコミュニティづくり(2)

- 反時計回りだけでなく、時計回りの発想を！



平時と災害時とは、住民の要求も、行政の対応も異なることに注意！

自主防災組織のリーダーとは(1)

- 自主防災組織のリーダーは、自治会・町内会長など、すでにいくつかの地域の役職を兼ねている場合が多い。
- 地域をよく知り、人望が厚い人が望ましいから。
- しかし、物理的に、負担が大きい。それでも引き受けるのは、志があるから。
- しかし、自分たちのコミュニティを守るのは、自分たちのためであるのに、なぜか地域の各戸に、リーダーが頭を下げてお願いして、防災訓練や講習に参加してもらうようなかたちになっている場合が多い。
- 心理的にも負担が大きい。志も萎えてしまう。
- さらに、自治会その他の会合や行事などで、すでに多くの時間と手間がかかっている。自主防災組織の活動が、さらに加わることの負担。
- 例)研修会の案内が来たが、他のメンバーの参加が期待できないので(これ以上、負担をかけられないので)、誰にも案内せずに、自分(会長)だけで対応することにした。
- 一人で抱え込まないことが大切！信頼できる仲間をつくり、人を動かすこと。自分のためにも、地域の人材育成や組織継承のためにも。

自主防災組織のリーダーとは(2)

- 1) **引継ぎを徹底すること!**
- 組織継承のためには、退任時に、引き継ぎを徹底すること。就任時から引継ぎを考えながら運営していくこと。
- リーダーがかかわると、まったく別の組織のようになってしまい、動きが悪くなることがよくある。
- 2) **自分の組織の特徴を把握すること!**
- ・自治会長兼任型(例:いくつかは順番が回ってくるので協力)。
- ・リーダー単独型(例:地域の実質的リーダーが長期間担当)。
- ・段階型(例:自治会長経験者がリーダーになる)。
- 3) **地域の長老・重鎮など実質的なリーダーに協力を仰ぐこと(挨拶をすること)!**
- 自主防災組織のリーダーに就任したからといって、みんなが指示通りに動くとは限らない。

自主防災組織のリーダーとは(3)

- 1) **地域の関係団体との連携によって、防災力を高める必要性**
- リーダーの能力、性格、周囲との関係によって随分と違って来るから。
- 消防署、消防団 社協、地域防災の専門的な技術力と組織力と連携し、
- 地域防災技術の指導者として、自主防災組織の技術力向上に協力してもらう。
- 社協がしっかりしているところは、防災力も強い。
- 2) **消防団と自主防災組織の関係の難しさ**
- (年齢構成の違いの問題。消防団は消火に関しては、ソフト・ハードの両面が充実。しかし、地震は想定外?)。
- しかし、これを乗り越えて、協力関係の構築を!
- 3) **地域の子ども、女性、若者、企業、各種団体をいかに取り込んでいけるか。**
- 例)祭りや文化財の保存会なども。
- 4) **リーダーは、地域ですでに活動している団体とのネットワークをコーディネートする。また、自主防災組織の会員の特技を把握し、活かす。**
- 例)重機を所有し使える人、機器・機械に強い人、救助の知識・技術のある人
- 既存の条件をいかに効果的に取り込んでいけるかが勝負!

自主防災組織のリーダーとは(4)

- 地域の風土・環境・立地などの特徴を把握し、それに応じた対策を考える。
- 会員世帯の所在や人数、要援護者を把握し、それに応じた対策を考える。
- しかし、実際の災害時には、状況に応じて臨機応変に。
- いつ来るかわからない災害に対して、防災意識を維持し、訓練講習を継続することは困難！
- 防災、防災といわなくても、結果的に、防災につながる工夫を！
- 参加者が楽しめ、恒例の楽しみとなるようなもの。
- 例) 祭りや行事などの一部に組み込むなど。

活動事例の紹介

■ 徳島県東みよし町の事例

- 事例1: 円福寺自主防災会 クリーン作戦(一斉清掃活動)とセットで防災訓練
- 事例2: 法市自主防災会 緊急避難用ヘリポートの設置と自衛隊との連携。農村舞台復活公演
- 事例3: 中ノ段自主防災会 自主防災ニュース(手作り新聞)の発行
- 事例4: 毛田自主防災会 防災をきっかけに、コミュニティづくり(フラワーロードの草取り作業)

■ 島根県雲南市の事例

- 事例6: 波多地区 波多コミュニティ協議会の防災の取り組み「波多彩りプロジェクト」

■ 島根県邑南町の事例

- 事例7: 市木自治会の総合的なまちづくりの取り組み「安夢未プロジェクト」
- 事例8: 和田原自治会の「救急医療情報キット」
- 事例9: 井原地区の神楽保存会と消防団 「踊る防災」

踊る防災

- 事例：徳島県東みよし町の金丸八幡神社の宵宮神事(神楽)保存会
- 地元消防団のメンバー23人中19人が、保存会のメンバー。
- 多くの若者が保存会に参加。理由は、神楽には見せ場があり、自分を表現することができるから。地域の文化遺産を守らなければならないという気持ちから。
- 定期的な練習を通じて、地域の若者間・世代間の交流。
- 日常生活でも付き合いが生まれ、仕事上でも交流が生まれている。
- こうした関係を通じて、人柄を知り、信頼関係が出来ることで、先輩が後輩を消防団へ勧誘。保存会を通じて消防団員を確保するルートが、巧みに作られている。
- 文化遺産(シンボル)の保存を通じたコミュニティ力・防災力の強化。シンボルを守ることが自分たちを守ることにつながる。

最後に お礼を一言。

- 昨年2010年度の島根県自主防災組織リーダー研修会の参加者の皆様から、また今年2011年2月に邑南町の市木、和田原、井原の各地区、雲南市の波多地区を訪問し、各会長様・責任者の方々から、貴重なご意見を頂戴しました。
- 本日の講義は、以上の方々のご協力・ご助言を踏まえてのものです。
- この場を借りて、お礼申し上げます。

■ **ご静聴ありがとうございました**
